

vol.33

むすぶ



ききこぐらう

最小単位の室内楽「ヴァイオリン・ソナタ」。音楽史上、当初は、「ヴァイオリン・オブリガート（伴奏）付きのピアノソナタ」として、ヴァイオリンはあくまで、ピアノの添え物でしかありませんでした。そのヴァイオリンの有機的な「はたらき」を与え、そして、アンサンブルを協奏する面白味を与えてくれたのは、モーツァルトだったと言えるでしょう。この回では、そのモーツァルトのK.301のソナタではじまります。そして、次に登場するベートーヴェンのピアノ三重奏曲第5番「幽霊」は、「大公」に並ぶピアノ三重奏曲の名曲です。こちらも、当時チェロには通奏低音の役割くらいしか与えられていなかったこのジャンルのチェロにベートーヴェンが「はたらき」を与えてくれました。室内楽の起源ともいえる古典作品を味わった後には、ショスタコーヴィチの三重奏の第2番。モーツァルトやベートーヴェンの時代とは別な意味で混沌とした世の中に産み落とされたこの作品は、3つの楽器の特性を駆使しきって幅広い表現方法を持つようになります。vol.22につづいて登場する息の合った3人のアンサンブルをご堪能下さい。

三宅 進プロデュース

2022年10月27日（木）19：00開演

曲目

モーツァルト：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 K.301

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第5番 ニ長調 「幽霊」 Op. 70, No. 1

ショスタコーヴィチ：ピアノ三重奏曲 第2番 ホ短調 Op. 67

出演

ピアノ

ヴァイオリン

チェロ

三輪 郁

高橋 和貴

三宅 進

1回券先行販売

2022年7月31日（日）

vol.32 公演日会場限定発売

一般発売

2022年9月13日（火）

宮城野区文化センター／

仙台市内プレイガイド